

Neues in Nara

Nr.65

2018年11月11日

Japanisch-Deutsche Gesellschaft Nara (JDG-Nara)

奈良日独協会 (会長 河野良文) 奈良市大安寺 2-18-1 大安寺内

Tel/0742-61-6312, Fax/0742-61-0473

<http://www.daianji.or.jp/jdgn/index.html>

編集委員：林 (hayashiy@zeus.eonet.ne.jp)、峯本 (hmine-24@m3.kcn.ne.jp)



編集委員より：会員の皆様からの積極的なご投稿をお待ちしています！きょう

●行事予定

1. クリスマス会

日時：12月8日(土)17時～19時30分

場所：「ホテルアジュール 奈良」

(奈良市油坂町1-58 電話：0742-22-2577)

参加費：5,000円(学生2,000円)

ご家族、お友達をお誘いの上、多数のご参加をお待ちします(詳細、同封の案内チラシを参照)。

2. 第21回シュタムティッシュ

2019年2月17日(日)15時より大安寺催事棟にて、会員の小川住江さんから「マイセン磁器の絵付技法」をテーマに話題提供頂きます(詳細後報)。

3. 第2回ドイツ料理教室

12月上旬、奈良市の生涯学習センターにて開催予定です、詳細決まり次第ご連絡します。

4. 関西地区日独協会新年会

日時：2019年1月11日(金)18時30分から

場所：アサヒスーパードライ梅田

参加費は各自清算、参加申込は林さん宛メール (hayashiy@zeus.eonet.ne.jp)にてご連絡願います。

●行事報告

1. ビア・アーベント

7月29日(土)、当会恒例のビア・アーベントは台風接近のため、急きょ会場を屋内の「獅子吼殿」に移して挙行。この為ドイツ総領事のご参加が叶わなかったのは残念であったが、不安定な天候にもかかわらず天理大学留学生など、60名近くの会員及び一般からの参加を得て賑わい、フィナーレは「獅子吼殿」にふさわしくローソクの輪で締めくくった(左上写真)。

2. 第20回シュタムティッシュ

9月2日(日)大安寺催事棟にて開催。会員の藤澤一夫さんから「伸びる、ドイツの再生可能エネルギー」と題して、電力供給を石油・ガスなどの化石燃料及び原子力利用から再生可能エネルギー利用へ大胆にシフトするドイツの現状と将来について、豊富なデータを駆使して分かりやすくお話頂きました。なかでも注目されるのは、ドイツでは稼働中の原子力発電を2022年には完全に廃止しようとしている点で、日本のエネルギー政策の現状と将来を考えるのに大変示唆に富んだ内容でした。



●会員だより

小山泰子さんから

「私とドイツ ゲーテからシュタイナーへ」

皆さま、初めまして。2人の息子たちがそれぞれ中2と小2に成長し、ようやく少しずつ自分の時間も作れるようになってきた私は、目下これから何をして生きていこうか模索中です。過去を振り返ると学生時代に学習院大学で独語と独文学を学び、1年半ほどドイツに留学していたことが私のアイデンティティの核の一つを担っています。

帰国後ゲーテのヴィルヘルムマイスターをテーマに修士論文を執筆し、修士課程を修了した後、大手電機メーカーの国際営業部に2年ほど勤務しましたが、ゲーテの自然観に関するルドルフ・シュタイナーの著作を読んで感銘を受け、改めてシュタイナーの思想を学びたいと思い、会社を退職して、日本アントロポゾフィー協会の教員養成講座や療法的音楽教育者養成コース(オーディオ・ペーデ)等を通してシュタイナーの思想、教育、芸術の基礎を学び、実践していました。それはとても深遠で一生涯を通して学び続けるような世界でした。日本では不認可ですが、ドイツにはシュタイナー学校がたくさんあります(約小学校240校、幼稚園560園)。オーディオ・ペーデで短期渡独して、現地の学校で学ばせもらった時のことは忘れられません。なんとという豊かな美しい愛に満ちた学校だったことでしょう。

その後、出産を機にオーディオ・ペーデの学びは中断せざるを得ませんでした。人間が心身ともに健やかに成長していく道筋、各々の個性を活かしつつ、平和と友愛に満ちた社会がどうあるべきかを提示してくれたシュタイナーの思想は、私の子育ての基盤となり、日々の生活の中で私の生き方の核となっています。



オーディオペーデでの研修(中央チェロの後ろに私)



シュタイナー本拠地ドルナッハのゲーテアヌム



ゲーテの銅像と私

●新入会員：掛水孝志さん(交野市)が入会されました。
(裏面の記事もご覧ください)

3. 独日文化交流育英会研修生来会

10月6日夕刻、マイト・ピア智子さん引率の一行6名と大安寺「獅子吼殿」にて当会会員と交流会を行った。



4. 法隆寺国際高校の国際交流でリントルン・ギムナジウムから13名が大安寺訪問

9月26日、リントルン校から13名（生徒11名と先生2名）と法隆寺国際高校の先生一行が大安寺を訪問、初めての瞑想体験に最初は皆さんに戸惑いも見えましたが、徐々にリラックスして瞑想を体験していました。その後の当会会員との懇親会は楽しい日独交流の場となりました。



5. 天理大学留学生との座談会

会員の天理大学・中柘勝美先生からのご提案で、7月1日大安寺催事棟にて、ドイツからの同大学留学生チュチャ・ナシュワンさん（マールブルク大学生）とその友人（ともに、視覚に障害を持つ柔道家）及び柔道の先生の3名が参加頂き「視覚障害と柔道」というテーマで、ドイツと日本の現状について貴重なお話を伺うことが出来ました。また会員の西尾功先生からシューベルトの「冬の旅・菩提樹」の歌詞の由来をご紹介頂くなど、大変有意義な一日となりました。さらに高原弘海会員から日本視覚障害者連盟のHPをご紹介頂き、ありがとうございます。

この座談会で、モデレーターを務めて頂いた中柘先生にお礼申し上げます。



6. 「第1回ドイツ料理教室」開催報告 松本俊郎

奈良日独協会では、日独文化交流の一環として、第1回ドイツ料理教室を9月8日(土) 奈良市生涯学習センターにおいて、開催しました。当日は11名の皆様にご参加いただきました。

今回は、ドイツの季節を味わう家庭料理をテーマとし、土井ギーゼラ先生(奈良日独協会会員)を講師にお迎えし、「ギーゼラ流 グーラッシュ(Goulasch)」を料理しました。

教室を始めるにあたり、当料理グループ 河野恵美子副会長より、ご挨拶をいただいた後、土井ギーゼラ先生により、この料理は、ドイツでは、家庭料理として、作られており、家庭ごとに、受け継がれた味があることが述べられた。「ギーゼラ流グーラッシュ」の作り方について、お肉に混ぜる小麦粉の量、玉ねぎやパプリカ等の切り方、圧力鍋の使い方等説明いただいた。1時間ほどで、出来上がったので、お皿に盛り付けて、付け合わせのライ麦パンと共にいただいた。「グーラッシュを初めて作ることができて良かった。」「先生に、料理を見ていただき、アドバイスをもらえて、大変参考になった。」「皆さんと一緒に作れて楽しく、美味しくいただけた」などの感想をいただき、ドイツの家庭料理の魅力を知る機会にさせていただきました。

当料理グループでは、これからもドイツの家庭料理の楽しみや食文化を伝えていく活動を推進してまいります。尚、次回は、土井ギーゼラ先生を講師に迎え、12月15日(土)に、シュトーレン(いずれも予定)を作ります。次回もご参加の程、宜しくお祈りいたします。



(1) 料理教室スタート



(2) 早速、調理開始



(3) 先生から、分かりやすく教えていただけます。



(4)「ギーゼラ流グーラッシュライパン添え」



(5) 皆さん、美味しかったと好評でした。